



2015.4.13

4月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸YMCAちとせ幼稚園

新年度を迎えて、新入園児は期待と不安を胸に、また進級児は少しお兄さん、お姉さんになった気持ちで登園したことでしょう。

キリスト教保育連盟は、今年度の年主題を、“『平和』をつくる”と決めました。戦後70年を迎え、わが国のこれからの平和と安全についても、また新たな局面を迎えているようにも思います。

平和を考えるときに、戦争のない状態だけをイメージしてはいけなことは当然です。様々な差別や貧困、虐待、災害なども平和を脅かすものですし、自分自身が無意識に他者を傷つけている場合があるかも知れないことも自覚しなければなりません。そしてまた、個々人が平和を愛し、平和を望むだけでも不十分であることも事実です。国家レベルでまた個人の生活の中でも平和をどう捉え、どう行動するかが問われているのです。まさしく、子どもを育てるといことも、平和をつくる人・平和を実現できる人、本当に他者を愛することが出来る人を育てるとい大きな使命を担っていることを自覚しなければいけません。

子どもたちに平和を伝える教育においても、「平和は大切だ」「他者を愛さなければいけない」、そんな言葉をいくら聞かせたとしても、知識に留まらない個人の価値観が身につくわけではありません。平和を支える基礎となる人間に対する基本的な信頼感は、生まれた瞬間から全てを委ねなければ生きていけない存在として、愛され育まれるなかで育っていくものです。そして、自分の家族だけではなく、社会の中でも認められ、自分を値打ちあるものと感じて成長した者だけが、本当の意味で他者を愛することができるのだと思います。幼稚園でも、子どもたちが一人ひとりに与えられた力を使って、友だちと遊ぶのが一番楽しいという経験を十分に積む中で、自分を愛し他者を愛することが出来る者として成長することを願っています。

最後に、たった自分一人だけであっても、人を愛し平和を実現しようとする行いの大切さを気づかせてくれる南米アンデス地方に伝わる民話を紹介します。

森が燃えていました 森の生きものたちはわれ先にと逃げていきました
でもクリキンディという名のハチドリだけは いったりきたり
くちばしで水のしずくを 一滴ずつ運んでは火の上にと落ちていきます
動物たちがそれを見て「そんなことをしていったい何になるんだ」といって笑います
クリキンディはこう答えました「私は、私にできることをしているだけ」
出典：『ハチドリの一とすく』（辻信一監修、光文社）

年主題 『平和』をつくる

<年主題聖句> 「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」
(マタイによる福音書5章9節)

4月主題 「であう」

聖句 “主イエス・キリストの恵みと平和が、あなたがたにあるように。”
(ガラテヤの信徒への手紙1章3節)